

# 群馬県藤岡市

## 中大塚方言のアスペクト

新井 小枝子

### I. はじめに

- (1) 調査対象地：藤岡市は群馬県の南西部に位置する東西に長い市で、東部は関東平野に連なって市街地が開けており、西部は御荷鉾山を中心とした山間地である。中大塚は市街地と山間部の境に位置する、人口約1000人・世帯数約300戸の村落である。この村落では、苺・トマト・椎茸などの園芸農業を行っている農家が多い。また、繭の生産も盛んである。近年、前橋長湊線バイパスが開通し中大塚を通過することによって、昔からの農村地帯も急激に変化している。鉄道は、高崎市と八王子市を結ぶJR八高線が通っている。主要道路は国道17号線・254号線があるが、バスの便は悪く、自家用車の利用率は極めて高い。
- (2) 調査年月日時：1993年9月29日・1994年1月9日
- (3) 話者：〔老年層〕新井 貞さん 大正5年8月4日生（77歳） 女性 外住歴なし  
他に、話者の夫である新井宣登さん（藤岡市に隣接する多野郡吉井町出身・79歳）に同席していただき、助言を得た。  
〔青年層〕新井 浩美さん 昭和48年2月25日生（20歳） 女性 外住歴なし  
青年層の調査では、筆者（言語形成地は藤岡市中大塚）の内省に基づき、確認調査を行った。
- (4) 調査者・調査場所：新井小枝子、篠木れい子・話者宅の居間
- (5) 調査方法・調査時の状況：調査表に基づき尋ねる方法。場面・状況を把握し想像して発話するということに対して、かなり苦勞して内省をしていたようである。しかし、雑談を交えながら積極的な協力を得ることができた。
- (6) 表記方法：与えられた調査項目の番号・順番に従って記述した。老年層の発話を中心に記述した。老年層と青年層の間で違いがあるものについては、青年層のものに〔青〕を付して記述した。何も付していないものは老年層の発話であり、実際の発話順位は、①②③で示した。

### II. 調査結果

- 1 (昔は)よく行ったものだね ①ヨク イッタッタイ ネー。(よく行ったよねえ)  
／②ムカシワ ヨク イッタッター。(昔はよく行ったものだ)／③イッタッケ ネー。  
(行ったっけねえ)／④イッタッモンダ。(行ったものだ)

\*動詞での〈回想〉は、「～ッタイ」「～ッター」で表現することが多いようである。どれも自分以外の人への語りかけだが、①③にみられる文末詞「ネー」の付いた表現は、それがより強くなる。青年層では、専ら次のように表現される。

- [青] チッチャイ トキワ ヨク イッタヨ ネー。(小さいときはよく行ったよねえ)  
 2 (あのころは)おもしろかったなあ ①オモシロカッタイ ノー。(おもしろかったよねえ)

\*形容詞での〈回想〉は、「～カッタイ」で表される。年上の人に対して、同意を求めるとき文末詞「ノー」を用いる。その他の人に対しては、「ネー」または「ナー」になる。青年層でも①で表現されるが、次の表現をすることが多い。

- [青] アノ トキワ オモシロカッタヨ ネー。(あのときはおもしろかったよねえ)  
 3 (もうちょっとで)落ちるところだった ①イマ チットデ オッチャウ トコダッタ。(今少しで落ちてしまうところだった) / ②オッコチル トコダッタ。(落ちこちるところだった)  
 4 (今にも)落ちそうだよ ①オッチャウ ヨ。(落ちてしまうよ) / ②オッチャイソーダ ヨ。(落ちてしまいそうだよ) / ③オッコッチャイソー。(落ちこちてしまいそう)

- 5 (財布を)落として ①セーフオ オトシチャッテ。(財布を落としてしまって) / ②セーフオ オトシチャッテ。(財布を落としてしまって)

\*青年層は、専ら②で表現する。

- 6 困っている ①コマッテル。

- 7 (一本の)蠟燭が今にも)消えそうだよ ①キエチャウ ヨ。(消えてしまうよ) / ②キエソーダ ヨ。(消えそうだよ)

\*将然の告知表現と区別し、伝聞の表現は「キエルゲダ ヨー。」でなされる。

- 8 (今)消えようとする ①ローソクガ オエチャウ。(蠟燭が終わってしまう) / ②ローソクガ ナクナッチャウ(蠟燭がなくなってしまう) / ③ヒガ ケーチャイソー。(火が消えてしまいそう)

\*「火が消える」ことを「蠟燭そのものが無くなる」ととらえて表現する。この表現が、「消える」のアスペクト表現に先行して表れた。オエル・ナクナル(ともに瞬間動詞)に、「～チャウ(～てしまう)」を付した将現の相でなされる。これにより、「火が消えそうなこと」を表す。青年層は、③で表現するが連母音の融合はみられず、「キエチャイソー。(消えてしまいそう)」である。以下、9・10も同様。

- 9 (完全に)消えた ①アー ケーチャッタ。

\*「完全に火が消えた」という意味の既然の相では、「ローソクガ ナクナッタ。」| 「ローソクガ オワッタ。」という表現はみられない。「～チャウ」に過去の助動詞「タ」を付けて表現されている。

- 10 (すでに)消えていたよ ①ハー ケーチャッテタ。(もう消えてしまっていた)

\*青年層は、「ハー」が「モー(もう)」によってなされる。16・20・25も同様。

- 11 (何本もの)蠟燭が順に)消え始めた ①ダンダンニ ケーチャッテ クル。(だん

だんに消えてしまってくる) / △②キエハナツタ。(消え始めた)

\*「～始める」ことは、近向の「～テクル」で表現される。「キエカケタ」「キエカ  
カッタ」は、「火が消えそうになったが、消えてはいない」という将現の表現であ  
る。

12 (何本もの蝋燭が次々) 消えていくなあ (1)アー イッボン イッボン ケーテグ  
ナー。(ああ一本一本消えていくなあ)

\*遠向の「～テグ(ていく)」で表現される。群馬県方言では、イク〈行く〉の[k]  
が有声化して[g]になる。

13 (何本もの蝋燭が順に) 消えているよ (1)ツギツギニ ケーテグ ヨー。(次々に  
消えていくよ)

\*12と同じ、遠向の表現である。このときの文末詞「ヨー」は、「デー」となること  
もある。しかし、この「デー」を用いるのは男性が多い。

14 (何本もの蝋燭が全部) 消えているよ (1)ローソクガ ミンナ ケーチャッテル。  
(蝋燭がみんな消えてしまっている) / ②ケーチャッタ。(消えてしまった)

15 (何本もの蝋燭の火を次々) 消しているよ (1)ケシテル ヨー。(消しているよ)

16 (もう全部) 消しているか (1)ハー ケシテアルカ。(もう消してあるか)

\*「ケシテイル」で表現されることはない。

17 (今にも桜が) 散りそうだ (1)チッチャイソーダ。(散ってしまいそうだ)

18 (ちらほらと) 散り始めた (1)チツテキタ。(散ってきた) / ②チリハナツタ。(散  
り始めた)

\*始動は、「～ハナル」の他に近向「～クル」で表す。

19 (今現に) 散っている (1)チツテル。(散っている)

20 (桜の木がすっかり) 散っている (1)ハー キレーニ チツチャッタ。(もうきれ  
いに散ってしまった)

21 (地面一面に) 散っている (1)チツテル。(散っている)

22 今にも降りそうだ (1)フツテ キソーダ。(降ってきそうだ)

23 (あの時は今にも雨が) 降りそうだったなあ (1)フツテ キソーダツタ。(降って  
きそうだった)

24 (あの時はもう実際に雨が) 降っていたよ (1)アノ トキワ アメガ フツテタッ  
タイ ネー。(あのときは雨が降ってたよねえ)

\*青年層は、回想「～タッタ」を用いず次のようになる。

[青] アメガ フツタ ヨ。(雨が降っていたよ)

25 (あの時はやがて夜が) 明けようとしていたよ (1)ハー ヨガ アケル トコダッ  
タ。(もう夜が明けるところだった)

26 (来年の今ごろは家を) 建てている (最中) (1)タテテル。(建てている)

- 27 (来年の今ごろはすでに) 建てている (1)ウチオ タッチャッテル。(家を建ててしまっている) / (2)ウチガ タッチャッテル。(家が建ってしまっている)
- 28 (あの家はよく) 磨いてある (1)ミガイテアル。(磨いてある)
- 29 (隣の犬が) 鳴いている (1)ホエテル ヨ。(吠えてるよ) (2)ナイテル。(鳴いている)

\* (1)の表現を多用する。

- 30 (隣の子が) 泣いている (1)コドモガ ナイテル。(子供が泣いている)
- 31 (こどもたちが) 喧嘩している (1)ケンカ シテル。(喧嘩している)
- 32 (家に) いるかなあ (1)イルカ ナー。(いるかなあ)
- 33 (( ) ( ) さん) いるか (1)イルカイ。(いるかい) / (2)イルー。(いる)
- 34 (ああ) いるよ (1)アー イル ヨー。(ああいるよ)
- 35 (そういう人も) いるよ (1)イライ ネー。(いるよねえ)
- 36 (あなたは今何を) していたか (1)ナーニ シテターン。(何していたの)
- 37 (私は今金魚を) 見ていたよ (1)ミテタンダイ。(見ていたのだよ)
- 38 (金魚が今にも) 死にそうだ (1)シンジャイソー。(死んでしまいそう)
- 39 (やっぱり金魚は) 死んでいたよ (1)シンデター。(死んでいた)
- 40 読み始めていた (1)ヨミハネタ トコ サー。(読み始めたところさあ) / (2)ヨミカケタ トコ。(読みかけたところ)

\* 青年層は、(1)を使用せず(2)のみ。

- 41 読み始めたところへ(～た) (1)ヨミハネタラ デンワガ キタ。(読み始めたら電話がきた) / (2)ヨミハネタ トコイ デンワガ キタ。(読み始めたところに電話がきた)
- [青] ヨミカケタ トコニ デンワガ キタ。(読みかけたところに電話がきた)
- 42 着くと同時に～した (1)ウチー ツクナリ デンワガ カカッテ キタ。(家に着くなり電話がかかってきた) / (2)ウチー ツクツツト スグ デンワガ カカッテ キタ。(家に着くと電話がかかってきた) / (3)ウチー ツイタ トタンニ デンワガ カカッテ キタ。(家に着いた途端に電話がかかってきた)
- 43 着くと同時に～してくれ (1)ツイタラ スグ デンワ シナイ ネー。(着いたらすぐ電話しなよねえ) (2)ツクナリ デンワ シナイ ネー。(着くなり電話しなよねえ) / (3)ウチー ツキシダイ デンワ シナイ ネー。(家に着き次第電話しなよねえ)

\* 老年層、青年層ともに(1)(2)の表現が盛んである。

- 44 鳴り続けている (1)サッキカラ デンワガ ナリットーシダ。(さっきから電話が鳴り通した) / (2)サッキカラ ズット デンワガ ナッテル ヨ。(さっきからずっと電話が鳴っているよ) / (3)サッキカラ デンワガ ナリッパナシダ。(さっきから電話が鳴りっぱなしだ)

\*①②③ともに「誰も受話器を取らないので一つの電話が10回も20回もコールしている」場合の「鳴り続けている」である。なお、「電話が次から次へとかかってきてコールしている」場合には、以下のように表現される。

( ) サッキカラ デンワガ ヒッキリナシー ナッテル ヨ。

( さっきから電話がひっきりなしに鳴っているよ )

( ) デンワガ ナッテバイ イル ヨ。

( 電話が鳴ってばかりいるよ )

45 (先生は今何を) しているか ①センセーワ イマ ナニ シテルンカ ネー。(先生は今何をしているのかねえ) / ②シテルンデス カー。(しているのですか)

46 好きだ ①センセーオ スキ ヨー。(先生を好きよ) / ②センセーワ イーンネー。(先生はいいよねえ)

47 見られているのも ①アシタチニ ミラレテルンモ シラネーデ。(私たちに見られているのも知らないで)

48 (今、運動会が) ある ①イマ ウンドーカイガ サカンダ ヨ。(今運動会が盛んだよ) / ②イマ ウンドーカイオ ヤッテル ヨ。(今運動会をやっているよ)

\*イマ〈今〉とアルは、共起しえない。

49 (降らなくて) よかったよ ①ヨカッタ ネー。(良かったねえ) / ②タスカッタネー。(助かったねえ)

50 (先生がこっちへ) 来つつある ①コッチー クル ヨー。(こっちに来るよ) / ②コッチー クル。(こっちに来る)

51 (犬がこっちへ) 来つつある ①コッチー クル。(こっちに来る)

52 似ている ①ニテル。(似ている)

53 (一週間も前から遊びに) 来ている ①アスピー キテル ヨ。(遊びに来ているよ)

54 (昔から) 苦勞していない ①ムカシッカラ クローワ シテナイ。(昔から苦勞はしていない) / ②クローナンカ シチャー イネー。(苦勞何かしてはいない)

55 (今はあまり) 苦勞しないている ①イマワ イー ヨ。(今はいいよ) / ②クローワ シテナイ ヨ。(苦勞はしてないよ)

56 ~は売っているが、~は売っていない ①タバコワ ウッテルケド キルモンワウツテナイ ヨ。(たばこは売っているけれど着るものは売っていないよ)

57 (昔からタバコを) 売っている ①ムカシッカラ タバコオ ウッテル。(昔からたばこを売っている)

58 (今、大売り出して衣料品を) 売っている ①イマ ウリダシデ フクー ウッテル。(今売り出して服を売っている)

59 (もう三回) 来ている ①モー サンカイモ キテル ヨ。(もう三回も来ている)

- 60 (いつも) 来ている (1)イツデモ コノ ミセイ キテル。(いつでもこの店に来ている)
- 61 (昔はいつも) 来ていた (1)ムカシワ イツデモ キテタ ヨ。(昔はいつでも来ていたよ)
- 62 (前に一度) 行っている (1)マエニ イチド イッテル。(前に一度行っている)  
 △(2)マエニ イチド イッタッタ。(前に一度行ったことがあった) / (2)アスコノ  
 ウチー イチド イッタッケ。(あそこの家に一度行ったっけ)  
 [青] イッカイ イッテル。(一回行っている)
- 63 先に行っておいてほしい (1)サキニ イッテター。(先に行っていて) / (2)サキニ  
 イットクレー。(先に行ってください)  
 [青] サキ イッテター。(行っていて)「すぐに追いつくから先に出発してほし  
 い」場合の表現。  
 サキ イットイター。(行っておいて)「先に出発して目的地に先に着いてい  
 ほしい」場合の表現。
- 64 待っていないさい (1)スグ クルカラ ココデ マッテナ。(待っていない)
- 65 (外に) 待たせてあるよ (1)コドモワ ソトデ マタシテアルカラ。(子供は外で  
 待たせてあるから)
- 66 食べておいてくれ (1)マダ コッチワ ジカンガ カカリソーダカラ タベトイ  
 トクレー。(まだこちらは時間がかかりそうなので食べておいてください) (2)スグ モ  
 ドッテ クルカラ サキー タベトクレー。(すぐに戻ってくるから先に食べておい  
 てください)  
 \* (1)「タベトイトクレー」は、「食べ終わっておくこと」を促す場面の表現。(2)「タ  
 ベトクレー」は、副詞「サキー(先に)」と共に、「食べ始めておくこと」を  
 促す場面の表現である。  
 [青] スグ クルカラ サキ タベテター。(すぐに来るから先に食べていて)  
 ムカエニ クルカラ ゴハン タベトイテ ネ。(迎えに来るからご飯を食べて  
 おいてね)
- 67 (昔と) 違っている (1)ムカシト チガウ ナー。(昔と違うなあ)
- 68 (昔は今のと) 違っていた (1)イマノ アジトワ チガッテタ。(今の味とは違っ  
 ていた)
- 69 (毎日梅干しを) 食べている (1)マインチ ウメボシオ タベテル。(毎日梅干し  
 を食べている)
- 70 (毎朝) している (1)マイアサ ゲートボールオ シテル。(毎朝ゲートボールを  
 している)

71 気をつけていて(～した) (1)シジュー キオツケテテモ ビョーキニ ナッチャック。(始終気をつけていても病気になってしまった)

72 行ったまま～ (1)イットマンマ カエッテキナイ。(行ったまま帰って来ない) / (2)イックッキリ カエッテキナイ。(行ったきり帰ってこない)

73 ～しながら (1)ハナシー シナガラ ハシッテル。(話しながら走っている) / (2)ハナシ シーシー ハシッテル。(話しいしい走っている)

\*現在では(1)の方が使用頻度が高い。二つの動作が並行継続する場合、「ガテラ」を用いない。

74 ～の途中で～する (1)ガッコーニ イギナガラ。(学校に行きながら) / (2)イギガケニ ( ) ( ) サンチニ ヨッテ コレオ オイテッテ。(行きがけに○○さんの家に寄ってこれを置いていって)

\* (1)と(2)では、(1)「イギナガラ」の方が使用頻度が高い。動作が「イグ〈行く〉」の対義関係にある「カエル〈帰る〉」の場合には、「カエリガケニ ヨッテクル。(帰りがけに寄ってくる)」の使用頻度の方が極めて高いようである。

75 ～の途中で～した (1)ガッコーエ イグトチューデ センセーニ アッタ ヨ。(学校へ行く途中で先生に会ったよ) / (2)イギガケニ センセーニ アッタ ヨ。(行きがけに先生に会ったよ)

\*「偶発的に～の途中で～した」という文脈では、74で認められた「～ナガラ」は用いられない。

76 ～の途中で止めて～した (1)ホンオ ヨムンオ トチューデ ヨシテ。(本を読むのを途中で止めて)

77 ～したばかりだ (1)キノー ヨンダ トコダ。(昨日読んだところだ) / (2)キノー ヨンダ バッカシダ。(昨日読んだばかりだ)

78 無くなっている (1)メガネガ ナクナッテル。(眼鏡が無くなっている)

79 無くなるぞ (1)ハヤク タベナクッチャ オワッチャウ ヨ。(早く食べなくては終わってしまうよ) / (2)ハヤク シナキャ ナクナッチャウ ヨ。(早くしなくては無くなってしまふよ)

80 掛けておいた帽子 (1)カケトイタ ボーシ ドコヤッター。(掛けて置いた帽子をどこにやった)

81 並んだ本 (1)ココニ ナランデル ホンオ ミンナ ホシー。(ここに並んでいる本を全部欲しい) / (2)ココニ ナラバッテル ホンオ ゼンブ オクレー。(ここに並べてある本を全部ください。並び終わっている状態を見て) / (3)キレーニ ホンガ ナラバッタ ネー。(きれいに本が並んだね。並べている作業の途中で)

[青] ナランダ ホン。(並んだ本)

82 並べた本 (1)ココニ ナラバタ ホンワ ムズカシー ヨ。(ここに並べた本は難

しいよ)

\*「並べてある本」は「ナラベテアル ホン」である。

83 ~しておこうか ①イマノ ウチニ ヨンドクベ カ。(今のうちに読んでおこうか)

\*「ベー」は、意志を表す助動詞。

84 やってあるか ①シュクダイワ シテアル カ。(宿題はしてあるか)

85 壊している ①マタ オモチャオ ブッコシテル ヨ。(おもちゃを壊しているよ)

\*青年層は、「ブッコワス」を用いず「コワス」である。アスペクト表現は老年層と変わらない。86・87も同様。

86 壊れている ①コレマデ ブッコワレテル ヨ。(これまで壊れているよ)

87 壊されている ①コレマデ ブッコサレテル ヨ。(これまで壊されているよ)

88 のけてある ①アブネーカラ ドカシテアル。(危ないからどかしてある)

89 書き終わった ①イマ ヤット カキキッタ。(今やっと書ききった)

90 書いてしまいなさい ①ソノグレ ハヤク カイチャイナ。(そのくらい早く書いてしまいな)

[青] ハヤク カイチャイナ。(早く書いてしまいな)

91 書いてしまう ①ドーモ マチガッテ カイチャウ。(どうも間違っ書いてしまう) / ②コノゴロワ ドーモ ジオ マチガッテ カイチャウ ナー。(このごろはどうも字を間違っ書いてしまうなあ)

\*①の使用頻度が高い。②は青年層で用いられない。

92 書いてみた ①ハジメテ エオ カイテミタ。(始めて絵をかいてみた)

93 (孫は今)入院している ①ウチノ マゴワ イマ ニューイン シテル。(うちの孫は今入院している)

94 (弟も今)入院しているそうだ ①アメリカニ イッテルンモ ニューイン シテルゲダ。(アメリカに行っているのも入院しているそうだ)

\*伝聞は「ゲ」で表現される。

95 (きっと)よくなるよ ①キット ヨクナル ヨ。(きっと良くなるよ) / △②キット ヨクナッテグ ヨ。(きっと良くなっていくよ)

\*自分以外の人に対しては、遠向の表現である。自分のことを言うときには、「キット ヨクナッテ クル ヨ。(きっと良くなってくるよ)」と近向の表現である。

96 (だんだん)よくなるよ ①ダンダン ヨクナッテグ ヨ。(だんだん良くなっていくよ) / △②ダンダン ヨクナル ヨ。(だんだん良くなるよ)

\*95と同様に、遠向と近向の使い分けがなされる。また、95との対比で副詞の違いによる近向・遠向の使い分けはない。

97 歳とるとね ①トシー トルト (年をとると)

98 なおらなくなるよ (1)ナカナカ ヨクナラナイ ヨ。(なかなか良くならないよ)  
/ (2)ナカナカ ナオラナイ ヨ。(なかなかおらないよ) / (3)ナオラナク ナル (な  
おらなくなる) / (4)ナオンナク ナル ヨ。(なおらなくなるよ) / (5)ナオンナ  
ク ナッテ キタ。(なおらなくなってきた)

99 (1) (犬が) 怪我したので (1)イヌガ ケガー シタンデ (犬が怪我をしたので)  
(2) (こどもが) 怪我したので (1)コドモガ ケガー シタンデ (子供が怪我をし  
たので)

(3) (お父さんが) 怪我したので (1)オトーサンガ ケガー シタンデ (お父さん  
が怪我をしたので)

(4) (雨が) 降ってきたので (1)アメガ フッテ キタンデ (雨が降ってきたので)

100 (1) 「雨が降りつつある」 B 「今、ぼつぼつ降り始めた状態」を表す。しかし、  
次の表現の方が一般的である。

(○)アメガ フッテ キタ。(雨が降ってきた) (○)アメガ フリハナック。(雨が降  
り始めた)

※A 「今にも降りそうな」状態は、「(1)イマニモ フリソーダ。(今にも降りそう  
だ) / (2)イマニモ フッテキソーダ。(今にも降ってきそうだ)」と表現され  
る。

C 「すでに盛んに降り続けている、降っている最中である」状態は、「(1)アメガ  
フッテル。(雨が降っている)」と表現される。

\*青年層では「雨が降りつつある」という表現で、C 「すでに盛んに降り続けている、  
降っている最中である」状態を表す。

(2) 「貯金が増えつつある」 A 「貯金が少しずつ増えようとしている」を表す。

※B 「すでに現にどんどん増えている」状態は、「(1)オカネガ フェテル。(お金  
が増えている) / (2)オカネガ フェテ キタ。(お金が増えてきた)」と表現  
される。

\*青年層では「貯金が増えつつある」という表現で、A でもBでもなく、「増えてい  
る最中」を表す。

(3) 「貯金を増やしつつある」 B 「増やそうとして少し貯金をし始めた」ことを  
表す。

※A 「増やそうと計画している段階」は、「(1)チョキンオ ファソート シテル。  
(貯金を増やそうとしている)」と表現される。

C 「すでに現にかなり増やしている最中」は、「(2)チョキンオ ファシテル。(貯  
金を増やしている)」と表現される。

### Ⅲ. 総括(まとめ)

群馬県藤岡市中大塚方言におけるアスペクト表現の特色

一次アスペクトの基本相は、「～テル」と「～テアル」である。

「～テル」は共通語の「～ている」に相当し、前接する動詞の意義によって、進行相を表す場合と已然相を表す場合がある。

「～テアル」は形式も機能も共通語の「～である」と同じで、結果相を表す。

二次アスペクトは、まず将然相が「～ソーダ」で表現される。

已然相は「～チャッテル」で表現される。

始動相にはいくつもの表現が認められる。すなわち、「～ハネル」、「～カケル」、「～ハジメル」、「～トコダ」がそれである。「～トコダ」は始動相の中でもその始発点を表現する形式である。

継続相には「～ットーシダ」、「～ッパナシダ」の形式が認められる。なお、共通語にみられる「～続ける」は日常の言語生活の中ではほとんど用いられない。

終結相には「～チャウ」、「～チマウ」、「～キル」、「～オワル」の形式がある。

(あらい さえこ 群馬県立女子大学大学院研究生)